

病院だより



斜里町国民健康保険病院
広報誌 [令和5年5月発行]

INDEX

- P2 在宅医療の現状と課題
- P3 CTを更新しました
- P4 新入職員紹介・他

表紙「訪問診療スタッフ」

令和5年度の スタートにあたり

事務部長 芝尾 賢司



令和5年3月「WBC」が開催され、侍ジャパンの「優勝」という明るいニュースに沸きました。野球観戦をほとんどしない我が家においても今回はテレビに釘付け。ダルビッシュ選手がチームを一つにまとめ、大谷選手が「ここでどういう行動をとるとチームに貢献できるのか」を常に考え、更に出塁した際にはベース上でのパフォーマンス。選手全員の士気が一気に高まったように見えました。そして何よりそのチームを率いた栗山監督。「選手を成長させ、輝かせるのが監督の一番の仕事」と話され、また、大会後の大学入学式では新入生に向けた言葉で「挑戦し続けなさい。そして信じ続けなさい」。まさに有言実行で私たちにその姿を見せてくれたのではないのでしょうか。

前置きが長くなってしまいましたが、令和5年度のスタートにあたり当院の課題についてお話をさせていただきます。日本医師会が公表している斜里町のデータでは、「後期高齢者人口」は令和2年の1,940人に対して令和12年では2,229人まで増加。それ以降は減少すると推計されています。また、「医療需要予測」では令和2年を「100」とした場合、令和7年で「98」。それ以降も減少を続け、令和27年では「74」と推計されています。このように当院を取り巻く医療環境はますます大きな変化が続いていくものと思われませんが、

一方で当院が斜里町にとって「なくてはならない病院」という事実は変わらないと考えています。それらを踏まえ1点目は「安定した医療の継続」であります。当然のことながら医師をはじめとする医療技術職の確保ができれば「医療の継続」は不可能です。これまでも人材確保には積極的に取り組んできていますが、今後も「長期・中期・短期的な視点」を持ちながら全職員総力をあげて取り組んでいかなければなりません。

2点目は、先の「病院だより」において菊一院長から報告がありました通り、これまでも様々な病院改革に取り組んできているところであります。令和4年3月、国においては持続可能な地域医療提供体制を確保するため、限られた医師・看護師等の医療資源を地域全体で最大限効率的に活用するという視点を最も重視し、公立病院の経営を強化していくことが重要として「持続可能な地域医療提供体制を確保するための公立病院経営強化ガイドライン」を策定し、病院を設置する地方公共団体に対して令和4年度又は令和5年度中の「公立病院経営強化プラン」の策定を求めたところであります。当院においても今年度中の策定を目指すこととし、策定にあたっては先に申し上げた通り医療需要の変化も想定しながら、将来を見据えた「適正規模・適正機能」といった視点を重視した「経営強化プラン」の策定を進めていかなければなりません。

最後になりますが、当院が町民の皆様の「かかりつけ医」として「健康のお世話」を安定して継続できるよう努めてまいりますので、町民の皆様にもご支援を賜りますようお願い申し上げます。

前号では、在宅医療の概要と「利点」・「欠点」、日本の現状についてお伝えしました。在宅医療は、高齢化が進む日本で、ますます大切な医療分野となっていますが、高齢者が「自宅で療養したい」と思っても、それを叶える在宅医療の体制が整っていません。なぜなのでしょう。北海道の在宅医療の現状を探ると、課題がみえてきます。

北海道の在宅医療の現状と課題

●在宅死亡率が低い

北海道	11.9%
全国	19.0%

在宅死亡率 全国 47位(最下位)

・病院死亡率は全国 1位

(H27年 人口動態統計)



●在宅医療サービス実施割合が低い（特に診療所）

	病院	診療所	計
札幌	52.2%	25.6%	29.2%
北海道	62.2%	29.9%	34.6%
全国	62.5%	38.3%	40.2%

(H26年 医療施設調査)

●在宅療養支援診療所が少ない

【人口10万対施設数】

北海道	6.0
全国	11.4

全国 41位

・在宅療養支援病院は全国平均並み

(H28年7月全国在宅医療会議公表資料)

国保病院と地域の現状と課題

2010年10月から訪問診療を開始し、当初8名だった患者さまも現在は30名程に増えました。患者さまのニーズに応じていくには、右のような課題を解決していかなければなりません。

これらの課題を一度に全てを解決することはできません。そこで、「在宅、時々病院（入院）」という療養パターンを考えてはいかがでしょう。24時間365日在宅ではなく、時々検査やリハビリをするために入院し、その間ご家族には気分転換していただく感じです。国保病院にその療養パターンに応える機能、病床を備えています。

国保病院と地域の課題

- 医療現場の人材不足の解消
- 医療・介護スタッフ間の連携を強化
- ご家族だけに頼るのではなく、地域全体での見守りサービスを強化
- 何度も※人生会議をおこなう
 - ※人生の終末期における医療やケアの内容を事前に家族や医師等の信頼できる人たちと話し合うこと
- 急変時の対応を丁寧に説明する など

在宅医療への思い

在宅医療で、病院を離れて患者様の身近な空間を訪問すると、患者様にいろいろな人生の哲学や生き方を教えてもらっているように感じます。

良い在宅医療とは、必ずしも医学教科書に書かれた正しい医療をすることではないと思うことがあります。例えば、がんを治療しない選択をするのは、同時に死ぬことを受け入れること、その覚悟を患者さまに迫ることになります。

患者様の価値観に合わせた医療は、オーダーメイドの医療かもしれませんが、その場合、患者様にはご自身の価値観に合わせた責任や覚悟を強いる医療なのかもしれません。大変難しい問題ですが、当院は「患者様一人ひとりに合った医療、価値観に合わせた医療、患者様が満足できる医療」ができればよいと思っております。

患者様に在宅医療に関する情報が不足していることが、一番の課題かと懸念し、述べさせていただきました。少しでも多くの自宅で療養したいという患者様の希望が実現する社会になることを祈ります。
(院長 菊一 雅弘)



在宅医療に関するお問い合わせは
地域連携室 (☎22-2880 直通) まで
お気軽にどうぞ

CT を更新しました！

～簡単な操作で正確な検査が可能に～

CT（コンピュータ断層撮影装置）は、X線を使って体を輪切りにしたような画像を見ることができる機械です。当院では古くなったCT装置から、今年3月にシーメンス・ヘルスケア社のCT装置（SOMATOM go. Top）に更新しました。

この装置には「金属アーチファクトの低減」をはじめ、タブレット端末やAI技術採用による「作業効率の改善」といった多くの魅力があります。

POINT
1

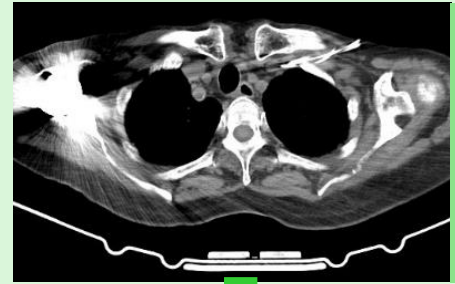
【金属アーチファクトの低減】

金属アーチファクトとは、体内にある金属製品が原因で起こる画像のゆがみのことです。この装置は、高速で画像処理を行うため、以前よりも体内金属が画像に影響を与えることが少なく、より正確な診断結果を得ることができます。【図1】



【図1】金属アーチファクトの低減

よく見えなかったものが…



金属アーチファクト除去前

くっきり見えるように！



金属アーチファクト除去後

POINT
2

【作業効率の改善】

当院では、患者様により多くの情報を提供するために、複数の画像を作成しています。

通常の断面画像（横断）以外にも、肺や胸部から骨盤までを前から見た画像（冠状断）や圧迫骨折が疑われる場合は、背骨を横から見た画像（矢状断）も日常的に作成します。【図2】

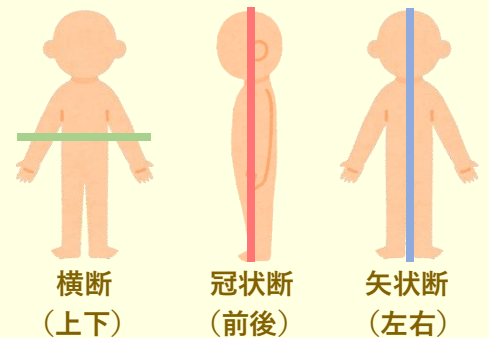
これまでの装置では、検査後に技師による画像の再構成が必要でしたが、新しい装置では、必要な画像を自動で作成することができるため、画像処理の負担が大幅に軽減されました。

また、新しい装置は「臓器」を自動認識して必要な範囲だけを画像化することができます。

このようにCTが賢く画像構成してくれることで生まれた時間を有効に活用し、技師は医師に報告すべき緊急を要する所見の有無などを確認するようにしています。

さらに、以前よりも被ばく線量が低減され安全性が向上されたとともに、肋骨を自動認識して、画像に肋骨の番号を割り振る機能もありますので、通常の横断画像よりも病気や異常が見つかりやすくなりました。

【図2】CT断面の方向いろいろ



町民の皆さまへ

最新の技術を使ったCT装置は、検査がより早く、安全で、画質も高くなっており、医師が迅速かつ正確な診断を下すことができるようになっていきます。

今後も、患者様の健康と安全を第一に、より良い医療技術を提供してまいります。

放射線科 佐々木



新入職員紹介

当院の新しいスタッフをご紹介します
皆様どうぞよろしくお祈いします！



非常勤ですが
患者様のお役に
立てるよう
頑張ります

看護師 加藤 聖子



看護師 崎田 弓賀子



看護助手 熱田 彩

透析室勤務です
患者様が透析室で
快適に過ごせるよう
最善を尽くします
よろしくお祈いします



看護助手 木村 春

皆様には健診受付などで
お世話になります
どうぞよろしくお祈いします



医事係 若木 嶺河

退職者紹介

令和5年3月末日をもって退職しました

皆さまお世話になり、ありがとうございました



医師 土田 和幸



看護部長 米山 友美



看護部長 西村 さおり

【表紙紹介】 ～訪問診療スタッフ～ 訪問診療担当医は 菊一院長



今年度、訪問診療の担当医師が土田医師から菊一院長に変わりました。私たちは、信頼関係を築きながら、地域の特性に合わせた医療を提供し、皆様が安心して治療を受けて頂けるように努めていきます。

また、院内設備の充実や医療スタッフの研修にも力を入れ、より質の高い医療を提供することを目指しています。

訪問診療の医師が変わりましたが、菊一院長をはじめとする職員一同、地域の皆さまの健康を守るために全力を尽くしてまいります。

皆さまの健康と笑顔のために、今後も一層の努力をしております。何かご不明な点やご要望がございましたら、いつでもお気軽にお問い合わせください。今後ともご支援・ご愛顧のほど、よろしくお願い申し上げます。

採用情報

当院では、
内科医師(常勤医)
薬剤師(正職員)、
臨床工学技士(正職員)
看護師・准看護師(正職員・臨時職員)
看護補助者(経験・資格不問)を募集中です。
*詳細は当院ホームページをご覧ください



内科医師 薬剤師
看護助手
医療スタッフ 募集中
臨床工学技士
准看護師
看護補助者
自然豊かな街で地域医療を一緒に支えませんか？

斜里町国民健康保険病院

☎0152-23-2102

〒099-4117 北海道斜里郡斜里町青葉町41番地

この広報誌は当院のホームページ
でもご覧いただけます
<http://www.shari-kokuho.jp/>

